

## 四季のコンサートだより

1994年10月15日発行

浜松音楽友の会

事務局 浜松市東伊場1-10-507

電話連絡 473-3579 (原)

## 「おらが町の音楽会」

牧野正人

先日は浜松音楽友の会主催の音楽会に出演させていただき、有難うございました。

温かいお客さまに囲まれ、心地よい拍手の中で、自分なりに、満足のゆく演奏ができたと思っております。

さて話は、イタリアに留学していた時の事。北イタリアの古い歴史の町、ベルガモ。私の住んでいたミラノから、電車で1時間ほどというところで、気軽に、この町の劇場にはよくでかけました。オペラが終わってから近くのレストランで食事をして、ワインを少し飲みすぎたとしても、悠々、家に帰り着くことができました。

イタリアには五大劇場といって、ミラノのスカラ座のほか、ローマのオペラ座、フィレンツェ、ボローニャの市立劇場、ナポリのサンカルロ劇場があります。そしてさらに、これらの他にも、たくさんの小さな町にそれぞれ、その町の誇るオペラ劇場があるのです。このベルガモという町もそういった町の一つで、作曲家ドニゼッティの生地ということで、毎年秋には「ドニゼッティとその時代」というフェスティバルが開かれます。

この町のオペラハウスでは、もちろんキャストの歌手手達はシーズンで契約したオペラ歌手達ですが、面白いことは、通行人などの、いわゆるエキストラや合唱団員に、町のオペラ気遣い？の、いわゆる出たがりの人達も混じっています。そして、上演のための資金不足のときは、舞台装置などが演出家のアイデアのもとに簡略化されたりします。

しかし毎年、どの演目も熱のこもった、本当に素晴らしいオペラ上演となります。天井桟敷のいつもの席に陣取った、町のオペラ批評家たちが、「ブラボー」や「ブー」などの歓声を上げます。中には感極まって、「マエストロ、有難う！」とか「そのとうり！歌はこうあるべき！」などと、大胆にも大声を発してしまう人がいます。

素晴らしいと思ったことは、そのようにして、おらが町の音楽水準は自分達で作るんだ、という意気込みが凄い。気に入らない歌手は「ブーブー」言って追い出し、良いものは大事にして、とことん付き合おうという気持ちを、町の皆が持っているのです。

指揮者や歌手にとっては、これはきびしい。田舎町のオペラハウスだからといって、力をぬく訳にはいかない。気合いが入って、良い演奏をすれば盛り上がる。とにかく客の反応がいいから、ウケれば観衆と演奏者との間で、相乗効果でどんどん熱が入り、オペラ全体が盛り上がり、ひいては町の文化水準の向上にもつながっていくというわけです。

残念ながら、まだ我が国ではこのような素晴らしいコンサートやオペラは、なかなか見ることができません。もちろん、ヨーロッパのように町のオペラハウスなどはありませんから、いわゆる「おらが町の・・・」というような気持ちは起こらないのだと思います。



9月8日のコンサートでの牧野正人さんと山田美津子さん

しかし今、各地で音楽愛好家の集まりや、とくにそのなかでも何らかの目的、目標を持った集団による、シリーズコンサート、フェスティバルなどの催しが増えています。それは市や町が主催になったり、後援したりする、比較的大きなものもありますが、なかには数人だけで構成される、本当に小規模なものまで様々です。そして、たとえどんなに小さな団体でも、「本当に良いものを聞きたい」「大勢の人に喜ばれるものを企画したい」という様な

切なる思い、さらに「どの様な音楽会を続けてゆくのか」という明確な主旨が、確実に輪を広げ、人を集め、コンサートやフェスティバルの成功につながるのだと思います。

「おらが町の音楽会」を定着させるためには、オペラハウスのように、“いつもその場所に行けばやっている”と町の皆知っている演奏会場の確保。音楽祭の名前を聞いただけで、“ああ、あれねえ”と町の皆知るくらいの宣伝。そして何より、コンサートに来たお客が失望しないための企画……。スタッフは大忙し。しかし、スタッフが忙しくて、テンテコ舞いすればするほど、その活気や情熱は、まず演奏者に“やる気”を起こさせ、そしてそれは演奏者を通じて聴衆に伝わっていきます。

今回、浜松音楽友の会を企画されているスタッフの皆様と知り合いました。そして何かそういう活気のようなものを私は感じました。いつまでも新鮮で、活気があり、“活きが良く”そして“粋”な音楽会であり続けて下さい。

「おらが町の音楽会」を目指して下さい。

## “四季のコンサート”

船越 美沙紀

浜松には音楽の好きな人が多いんだなあと、四季のコンサートに来るたびに思います。おそく行くといい席がなくなるので、いつも早目に出かけて並んで入ります。

毎回ちがった音楽が浜松で聴けるので、楽しみにしています。春には、あまり聞く機会がないアコーディオンの演奏も聞くことができました。あんなに沢山のボタンの音をよく覚えられるなあと関心しました。私もさわってみたかったです。

又、私のもう一つの楽しみは、出演者の方のお話やインタビューです。演奏中は、自分とは遠い所にいるように思えるのですが、お話している時は自分の近くに感じられます。どのように練習しているのか、私の年の頃はどんな子供だったかなど、私もいろいろ聞いてみたいです。

そこで思うのですがインタビューの時に開場から直接質問してもらったり、聞いてみたいことを前もって受けつけてもらえたらいいなと思います。

これからも素晴らしい音楽が、四季のコンサートで聴けることを期待しています。

## 弾く人と 聴く人のハーモニー

青島 宏至

安くていい音楽を聴く会が出来るのよ！と言って友人の奥さんから紹介され早いもので11年になります。楽器の街から音楽の街へ、産業と文化の街へ大変身しようとしている時でした。私も一人でも多く音楽を聴く仲間を作ろうと自分の経営している会社の従業員の為に入会致しました。国内外の一流演奏者を招いての音楽会ですから関係者の皆様のご苦勞もいかにばかりかと察せられます。

今、浜松市は、音楽都市を目指し大変な熱の入れようです。アクトシティは音楽のイメージの塊のようなものです。市民の熱い思いがアクトシティに代表され全国に発信しようとしております。ここで一つ気になるのは、建物や演奏者が超一流でも聴く人が二流だと音楽会は二流になってしまいます。時として、他の演奏会でも大変残念な光景を目にする時があります。演奏中、席を移動する人、子供がいたずらをしようが、イビキをかいて寝ていようが知らぬ顔の親。まだ音楽を聴くのはとても無理だと思われる小さな子供を連れてくる親。会場の席をただ埋めるだけの人で一杯になっていないでしょうか。聴くマナーを身につける事も、この友の会の目標の一つであると聞いたことがあります。関係者の皆様が大変なご努力と心配りをして運営しているのを知って、我々も聴くマナーを身につけないといけないと思っています。良い聴衆で席が一杯になったら本当に素晴らしいと思います。アクトシティは音楽専用のホールがあり、世界一流のアーティストが今後もしどしどし来ることでしょう。このような時に、浜松市民として誇りのもてる音楽会にしたいものです。それは聴く人と弾く人のハーモニーだと思います。

## イブニングの音楽会

伊藤 昭一

浜松音楽友の会のふれあいおんがくかいが11年目にはいったのですね。

設立当時のスタッフの方からお誘いを受けて、私も早速入会したのですが、その後、私自身の環境も大きく変わったのにも拘らず、ずっと続けてきたのには、何か理由があるのかな、と今考えています。

毎回、魅力的な音楽にふれることが出来るという期待もさることながら、スタッフの皆さんの、いわば手作りのあたたかさが感じられる運営も気持ちがよかったことも、大きな理由です。

でも、それだけじゃない。

およそ日本人は…という少々大袈裟ですが、一般的には仕事を終えて家に帰るとい生活のスタイルをとっていて、その途中がない。つまり、仕事というパブリックな世界と家庭というプライバシーの中間がない。あったとしても居酒屋であったりパチンコであって、何かいじましい。

仕事と家庭の中間にあるイブニングの世界が、とても貧しい。

ふれあいおんがくかいは、まさにこのイブニングの雰囲気をいっぱい持っているのが、とても貴重なんですね。と納得しています。

### ★保育室より

スタッフ 金子京子

「〇〇ちゃん、いらっしゃい。元気そうね！」

「〇〇君、今日はちょっとご機嫌悪いみたい、眠いのかな？」

開演時間が迫ってくると、保育室は賑やかになり、そして私達スタッフは忙しくなります。専門職の保母さん2人、ふれあいスタッフ2人、アルバイトの学生さん数人で、おあずかりしたお子さん達のお相手をします。御両親が心おきなく、ゆっくりコンサートを楽しんで下さればと願いながら、……

おあずかりするお子さんは、生後数ヶ月から小学校低学年位までですが、お母さんの姿が見えなくなると、まるで火がついたように泣き出す子もいます。そういう時は専門の保母さんにおまかせして、私は専ら、ご機嫌の良い子を相手に積木遊びや、折紙、ぬり絵等、それはまさに孫を相手の楽しいひととき！といった心境でしょうか。それでも、大切なお子さん達です。怪我などないようにとの心くばりに緊張する時間でもあります。

年にわずか4、5回だけのお付き合いですが、保育室を利用して下さる方々とのふれあいは、貴重ですし、又楽しみのひとつでもあります。毎回元気な顔を見せてくれるお子さんの成長は、数ヶ月で目を見張るものがあり、遊びの中にも、それなりの個性をのぞかせて、うれしく眺めるひとときです。

終演と共に、ひとりひとりお母さん達に手をひかれ、うれしそうに帰るお子さん達、そのうしろ姿に「バイ、バイ！又いらっしゃいネ！」と声を掛け送り出すと、ホッと一息、私達の仕事は一段落です。このお子さん達も遠からず客席のお仲間となり、音楽の良き理解者として成長なさることでしょう。

もしかしたら？素晴らしい演奏家として舞台に立たれるかも……と胸ふくらむ様な期待感もあるのです。



インタビューに答える仲道祐子さん（7月3日）

# 1995年 ふれあいおんがくかい 予定

春 マリー・マグダーモットピアノリサイタル 4月27日(木)  
第1回浜松ピアノコンクール第2位。“ふれあいおんがくかい”のために特別に来日されます。  
魅力あふれる音色と美しい容姿で話題になった彼女の、久しぶりの演奏をご期待下さい。

## 浜松出身の演奏家シリーズⅡ

森下幸路ヴァイオリンリサイタル 6月23日(金)  
仙台フィルハーモニー交響楽団コンサートマスター。サイトウキネンオーケストラにも参加した  
今後は最も期待される若手実力派。91年、桐朋学園大学出身者を中心とした気の合う10名でア  
ートファクトリーTOKYOを結成しています。

夏 トリオ・ディ・トリノ室内楽の夕べ 7月14日(金)  
1990年ヴィオッティ国際コンクール室内楽部門優勝、大阪国際室内楽コンクール第2位入賞、イ  
タリアで最も優れた室内アンサンブルの1つと評価されている若々しいトリオです。

秋 豊田喜代美ソプラノリサイタル 9月14日(木)  
幅広いレパートリーを持つ日本を代表するソプラノの一人です。どんなプログラムを聴かせてく  
ださるか今から楽しみです。

冬 山口多嘉子打楽器リサイタル 11月19日(木)  
東京芸術大学大学院を卒業後、ソロやオーケストラでの演奏の傍ら、山口多嘉子パーカッション  
ランドの代表としても大活躍中。今回は多数の様々な打楽器を総勢7名で演奏いたします。  
各回共 会場 浜松市民会館ホール

次回コンサート 11月5日(土)6:45p.m.

オクサナ・ヤブロンスカヤピアノリサイタル

10周年達成記念 共催 浜松市教育委員会

お忘れなくお出かけ下さい。

プログラム ベートーヴェン：「エロイカ」の主題による15の変奏曲

ベートーヴェン：ピアノソナタ第21番「ワルトシュタイン」

ムソルグスキー：組曲「展覧会の絵」

オクサナ・ヤブロンスカヤは、ロン＝ティボー・コンクールで第2位、リオ・  
デ・ジャネイロでのコンクールで第1位、ウィーンのベートーヴェン・コンク  
ールで第2位と世界的なコンクールで3つの賞を獲得している。デリケートなタッ  
チと強大な音量感で話題の超絶ピアニスト。モスクワ音楽院、ジュリアード音楽  
院教授を勤めるかたわら、世界30ヶ国以上での演奏活動を精力的に行っています。

## 会員の皆様へのお願い

会員日より 皆様のご寄稿をお待ちします。400字詰原稿用紙2枚以内でお願いいたします。

会員登録は年度が変わってもそのまま継続されます。

退会希望の方は住所 氏名 電話 会員番号を御記入の上前年度の12月末日迄に事務局宛退会の旨御連絡下さい。

名義変更の方も葉書に旧会員と新会員の住所 氏名 電話 会員番号(旧会員の)をお書きの上事務局宛お送り下さい。

保育室ご利用の方はコンサートの前日までに戸部まで ☎053(454)5359 お申し込み下さい。

開場時(開演30分前)から終演までお預りします。(1回300円)